

HAZARD MAP

朝日町 防災ハザードマップ

令和4年3月作成

ハザードマップの目的

平成23年3月11日に「東北地方太平洋沖地震」が発生し、東北地方の太平洋側に大きな被害をもたらしました。

この地方においても、南海トラフを震源とする地震が今後30年以内に70～80％の確率で発生すると予想されているほか、美、桑、桑、四日市断層をはじめとした活断層も多く存在することから、いつ大きな地震が発生してもおかしくない状況となっています。

また、ここ数年は台風や前線による大雨の影響で、河川の氾濫、浸水害、土砂災害の発生が頻発しています。とりわけ令和元年東日本台風(台風第19号)では、関東・東北地方を中心に広い範囲で記録的な大雨となり、甚大な被害が発生しました。さらに、伊勢湾沿岸地域では高潮による被害が生じるおそれもあります。

そこで朝日町では、今後発生のおそれがある地震および風水害、土砂災害に対する危険度を掲載した「朝日町防災ハザードマップ」を作成しました。このハザードマップを利用して災害に対する危機意識を持っていただき、災害が発生したときの安全かつ迅速な避難や事前の備えについて、日頃から家族や地域の皆さんで話し合ひましょう。

なお、このハザード情報は、現時点の科学的知見に基づく想定であり、決してこれ以上の規模で地震や風水害が発生しないわけではありません。

【問い合わせ先】
朝日町役場 〒510-8522 三重県三重郡朝日町大字小向893番地 TEL.059-377-5610 e-mail:bousai@town.asahi.mie.jp

避難情報

避難情報の伝達手段

災害が発生するおそれがある場合に、避難に関する情報を防災行政無線、広報車、緊急速報エリアメール、防災アプリ、報道機関などによりお知らせします。



警戒レベルの種類ととるべき行動

警戒レベルは「居住者等がとるべき行動」と「行動を促す情報」(朝日町が発令する避難情報と気象庁が発表する注意報等)とを関連付けたものであり、災害発生のおそれに応じて5段階に分類されます。避難情報等に注意を傾け、適切な避難行動をとりましょう。また、避難情報が発令されていない場合であっても、身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

【警戒レベル5】 緊急安全確保	発令基準 朝日町が発令	とるべき行動 既に災害が発生・切迫している状況です。命が危険ですので、直ちに身の安全を確保しましょう。	風水害 堤防の決壊や越水・溢水が発生した場合	土砂災害 土砂災害が発生又は切迫しているとき
【警戒レベル4】 避難指示	発令基準 朝日町が発令	とるべき行動 災害が発生する危険が高まっています。速やかに危険な場所から避難しましょう。	風水害 氾濫危険水位に到達したとき ●員弁川(安永観測所)…5.52m ●朝明川(松寺観測所)…2.63m	土砂災害 ●土砂災害警戒情報が発表された場合 ●近隣で前兆現象(湧き水、地下水が濁り始めた、量が増えた)が確認された旨の通報があったとき ●大雨警報(土砂災害)が発表されたとき ●大雨警報(土砂災害)が発表された後、かつ、予想で土砂災害警戒情報の基準を超過したとき
【警戒レベル3】 高齢者等避難	発令基準 朝日町が発令	とるべき行動 避難に時間を要する人(高齢者、障がい者、乳幼児等)とその支援者は、危険な場所から避難しましょう。その他の人は避難の準備を整えましょう。	風水害 避難判断水位に到達したとき ●員弁川(安永観測所)…4.56m ●朝明川(松寺観測所)…2.07m	土砂災害 ●近隣で前兆現象(湧き水、地下水が濁り始めた、量が増えた)が確認された旨の通報があったとき ●大雨警報(土砂災害)が発表された後、かつ、実況又は予想で大雨警報発表基準の土壌雨量指数基準値(138)を超過したとき
【警戒レベル2】 大雨・洪水・高潮 注意報	発令基準 気象庁が発令	とるべき行動 避難に備え、ハザードマップ等により自らの避難行動を確認しましょう。	発令される条件 気象状況の悪化	
【警戒レベル1】 早期注意情報	発令基準 気象庁が発令	とるべき行動 災害の心構えを高めましょう。	発令される条件 今後気象状況悪化のおそれ	

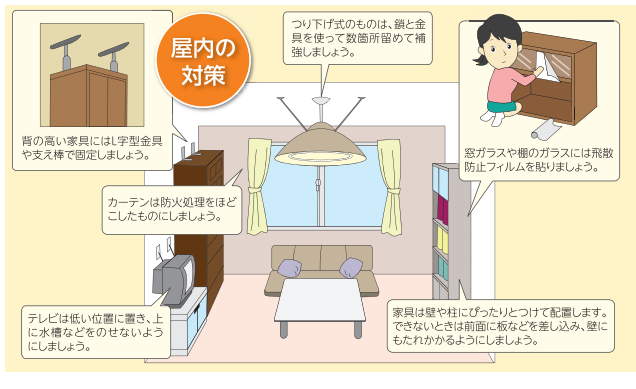
要配慮者を支援するときの心得

要配慮者とは、高齢者、障がい者、妊産婦、外国人など、災害発生時の対応に支援を必要とする人々のことです。要配慮者を災害から守るためには、地域全体の協力が不可欠です。災害時の情報提供や安否確認、避難誘導など必要に応じた支援をしましょう。

高齢者、妊産婦、子どもには	車いすの人には	知的障害のある人には	要配慮者のみなさんへ
●声をかけ、安否確認を行う。 ●救助しなから安全な場所まで誘導する。 ●荷物などを一緒に運ぶ。	●階段や急坂では必ず2～3人で介助する。 ●上るときは前向き、下るときは後ろ向きに。	●一人でいるときは、声をかけて落ち着かせよう。 ●言葉で理解できない場合は、手を引いて安全な行動ができるよう誘導する。	災害時の混乱の中では、遠方の支援者がすぐにつけることは困難です。また、支援者自身が被災する可能性もあります。そのため、できる限り、近所に隣家の支援者をつくるようにしましょう。 近所の人に、自分が災害時に支援が必要であるという意思表示を行うことも大切です。協力者を得るようによりコミュニケーションを取り、災害から身の安全を守る努力をしましょう。
目の不自由な人には	耳が不自由な人には	外国人には	
●「お手伝いしましょうか?」と、まず声をかける。 ●杖を持った方の手をとらず、ひじりあたりに触れずゆっくり歩く。	●正面に向き合って口をやや大きく動かしてゆっくり話し、口の動きで情報を伝える。 ●手話や筆談のほか、手のひらに指で文字を書いて情報を伝える。	●身振り、手振りで話しかけ、孤立させない。	

地震防災対策

私たちができるもっとも手軽で有効な地震対策は家具の転倒・落下を防ぐ対策と、家の周囲のブロック塀などの安全対策です。いまのうちに家の内外を点検して、以下のような対策を進めておきましょう。



わが家の防災メモ

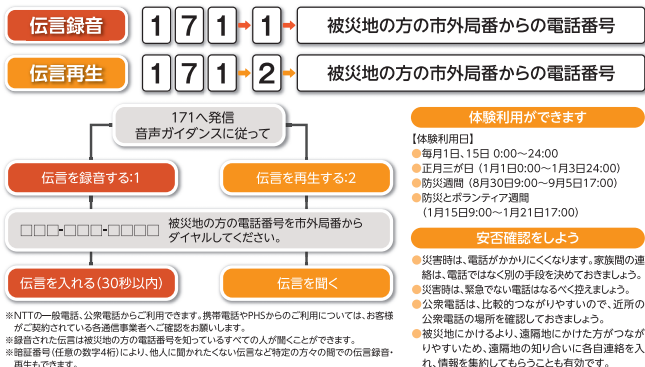
避難所	災害時避難場所
家族が離れ離れになった時の集合場所	
家族の連絡先	氏名 電話番号 住所

緊急連絡先	名称 電話番号 住所
朝日町役場	☎059-377-5610 大字小向893
四日市市北消防署 朝日川越分署	☎059-377-4945 大字小向375-2
四日市北警察署	☎059-366-0110 四日市市松原町4-32
朝日・川越交番 (令和4年3月31日現在)	☎059-365-4550 川越町大字豊田一色257-1

防災情報の取得先	名称 取得情報・URL
気象庁の防災情報	http://www.jma.go.jp/jma/menu/menuflash.html
三重県 防災みえ.jp	http://www.bosaimie.jp/
防災アプリ	名称 取得方法
朝日Sアラート	[App store]または[Google play]で「朝日Sアラート」と検索するか、右のQRコードからダウンロードする。

災害用伝言ダイヤル 171

家族間や友人間など、安否の確認連絡に活用できます。ご利用にあたっての事前契約等は一切不要です。



自宅で3日間過ごす時に必要な備品

夫婦2人、乳児1人、子ども1人、高齢者1人の5人家族の場合 大規模災害発生時には「1週間分」の備品が望ましいとされています。

全員	3日間過ごすために最低限必要なもの	+αあったらいいもの
水	水(1人あたり1日3リットル) 45L 給水タンク 2個 給水袋 2袋	
食料品	アルファ米、レトルトご飯 45食分 缶詰(さばの味噌煮、野菜など)★ 15缶 レトルト(食品)★ 15缶 缶詰(果物、小豆など)★ 3缶 加熱なしで食べられる食品(おぼろ、チーズ)★ 5缶	野菜ジュース★ 15本 飲料(500ml)★ 15本 菓子類★ 5/パック 健康飲料粉末★ 15袋 調味料(しょうゆ、しおなど)★ 一式 栄養補助食品★ 適宜
調理補助品	カセットコンロ 2台 カセットボンベ 8本 マルチツール (缶切り・ナイフなど) 1個	ラップ★ 1本 アルミホイル★ 1本 高密度ポリエチレン袋★ 1箱 卓上H調理器 1台 ポット 1個 消費電★ 適宜
清潔品	簡易トイレ 75回分 トイレットペーパー★ 12ロール ティッシュペーパー★ 1パック(5個入) 大型ビニール袋・ゴミ袋 適宜 除菌ウェットティッシュ★ 1箱(約100枚)	
薬・救急用品	常備薬・市販薬★ 各1箱 救急箱★ 1箱	
情報確認手段	携帯電話の予備バッテリー 携帯電話の充電数 手回し充電式などのラジオ 1個	
日用品	懐中電灯 2個 乾電池★ 50本 ライター・点火機/マッチ 1本 ロープ 1本 ガムテープ 2巻 軍手 5組	使い捨てカイロ★ 75個 新聞紙★ 適宜
衣類等	使い捨てコンタクトレンズ★ 1ヶ月分 その他 感染症対策用品(マスク・体温計・消毒薬)★ 適宜	
女性	3日間過ごすために最低限必要なもの 生理用品★ 60個(30個×2パック)	+αあったらいいもの
乳幼児	3日間過ごすために最低限必要なもの 粉ミルク(スティックタイプ)★ 20食分 離乳食(アレルギー対応)★ 9食分 おむつ★ 70個 お尻拭き★ 3パック	+αあったらいいもの フォーアップミルク★ 9食分
日用品	3日間過ごすために最低限必要なもの お風呂用洗剤★ 30錠 常備薬(処方薬)★ 1ヶ月分 お風呂用洗剤★ 30錠 お風呂用洗剤★ 30錠 お風呂用洗剤★ 30錠	+αあったらいいもの 母乳パッド★ 適宜 補聴器用電池★ 6個

地震が発生したら…



津波警報・注意報の種類

警報・注意報	発表される津波の高さ	とるべき行動
	数値での発表 巨大大津波の発生の恐れがあるとき	
大津波警報 (特別警報)	10m超	河川を遡上する津波の速度は、陸上よりも速いので沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
津波警報	5m～10m以下	
津波注意報	3m～5m以下	
津波警報	1m～3m以下	高い
津波注意報	20cm～1m以下 (表記しない)	海の中にいる人はただちに海から上って、海岸から離れてください。

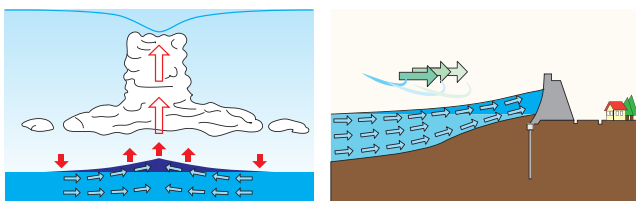
朝日町では、JR関西本線より山側を目指して避難してください!

高潮情報

高潮の発生メカニズム

台風や発達した低気圧が通過するとき、海面が大きく上昇することがあります。この現象を「高潮」といいます。高潮で潮位が高くなっているときに高波があると、普段は波が来ないようなところまで波が押し寄せ、被害が拡大することがあります。また、大潮と高潮が重なると潮位は一層上昇して、大災害の発生につながるおそれがあります。高潮の発生要因としては「吸い上げ効果」と「吹き寄せ効果」の2つのことがあげられます。

吸い上げ効果	吹き寄せ効果
台風や低気圧の中心では気圧が周辺より低いため、気圧の高い周囲の空気は海水をおしつけ、中心付近の海水が海面を吸い上げるように作用する結果、海面が上昇します。気圧が1hPa下がると、潮位は約1cm上昇するといわれます。例えば、それまで1000hPaだったところへ中心気圧950hPaの台風が来れば、台風を中心付近では海面は約50cm高くなります。	台風や低気圧に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が上昇します。この効果による潮位の上昇は風速の2乗に比例し、風速が2倍になれば海面上昇は4倍になります。また、遠浅の海や、風が吹いてくる方向に開いた湾の場合、地形が海面上昇を増大させるように働き、特に潮位が高くなります。



高潮の被害

伊勢湾のように、湾口が南側に面し、湾の軸が台風の進路と一致する場合には、高潮が生じやすくなります。過去には、昭和28年の台風13号や昭和34年の伊勢湾台風において高潮被害が発生しました。高潮による被害としては、浸水による溺死や、家屋の破損・流出、船舶の損傷・衝突など、さまざまな被害が発生します。

高潮被害の例	対象	被害形態の例
人的被害	溺死	漂流物によるけが 漂流中の異物の飲み込み等による病気 等
家屋被害	家屋の浸水・流出・破壊 浸水による電気製品等の障害 等	
交通障害	<鉄道>線路冠水、法面洗掘、道床決壊、軌道移動、鉄橋変形、臨海線埋没 <道路>越えによる地陥、道路冠水、漂流物衝突による変位や落橋、法面洗掘 橋台周辺の洗掘が原因の落橋、漂流物堆積による交通閉鎖 <港湾>土砂堆積による水深低下、局所洗掘による港湾構造物の破壊 流出物による港口閉鎖等の機能障害	
ライフライン被害	<水道>漂流物衝突による消火栓・給水栓破壊、河川よりの給水口の破壊 <電力>電柱倒壊・流出による送電停止、発電所浸水による障害や停電 <通信>電柱や架空ケーブルの被害、地下ケーブルの立ち上がり部切断、電話機の冠水被害 <下水道>排水溝を通じての浸水	

風水害の警報・注意報

大雨が降っている時は、気象庁が発表する警報や注意報を意図して、後の避難に備えましょう。

特別警報 ただちに命を守る行動を!!

警報・注意報の種類	特別警報	警報	注意報
大雨警報・注意報	数十年に一度の大雨で、重大な災害の発生する可能性が著しく高いときに発表される。	大雨による重大な災害が発生するおそれがあるときに発表される。	大雨による災害が発生するおそれがあるときに発表される。
洪水警報・注意報		大雨、長雨、暴風などにより河川が増水し、重大な災害が発生するおそれがあるときに発表される。	大雨、長雨、暴風などにより河川が増水し、災害が発生するおそれがあるときに発表される。
暴風警報・強風注意報		数十年に一度の強さの台風や同程度の温帯低気圧により暴風が吹くと予測されるときに発表される。	暴風による重大な災害が発生するおそれがあるときに発表される。
高潮警報・注意報		数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により高潮になると予想されるときに発表される。	高潮による重大な災害が発生するおそれがあるときに発表される。

その他の防災情報	土砂災害警戒情報 大雨による土砂災害の危険度が高まったとき、市町村長が避難指示等が発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報。
記録的短時間大雨情報	数年に一度しか発生しないような短時間の大雨を観測したり、解析したりしたときに発表する防災情報。

水害時避難の心得

足元に注意	【実験データ】
●水中のマンホールや溝に注意し、長い棒を杖代わりにして確認しましょう。 ●側溝やフタの取れたマンホールに落ちないようにしましょう。 ●長靴は水が入ると重くなり歩けなくなるため、運動靴で避難しましょう。	浸水深が0.5m(大人の膝)程度では浸水深速が0.7m/s程度でも避難は困難となる。
車は使わず歩いて避難	●避難途中で渋滞になり、避難できなくなります。 ●緊急車両の通行ができなくなります。 ●障害物を越えられず一刻をあらそうときに時間のロスになります。
集団で避難	●家族や近隣住民の方と一緒に避難しましょう。 ●安否確認や何か起きたときに誰かが知らせてくれます。
ひざまで水につかると歩けにくくなる	●一般的に人が歩ける水の深さは50cmといわれています。 ●水がひざまである時は、無理な避難はせず近くの建物の高い場所に避難しましょう。

水害(ゲリラ豪雨)による水害の手引き 平成28年4月 国土交通省水害管理・国土保全局 実験結果からとりまとめたデータ